



### 医療健康コーナー 麻生図書館で人気

川崎市立麻生図書館(麻生区)に1月に開設された「医療健康コーナー」が、人気を集めている。写真。病気の解説本や名医・病院のガイド本、日常的な健康情報の図書など約300

0冊をそろえた。いつも3分の1ほどが貸し出し中で、コーナーを自当てに来館する市民も多いという。

開設には、同市麻生区などで乳がん患者らの支援施設を運営するNPO法人「キャンサーリボンズ」(事務局・東京)が協力した。患者の心の支え方などをまとめた各種冊子を図書館に提供し、関心のある人は自由に持ち帰れるようにした。

池原真館長は、「治療法や薬の副作用といった難問を一度に抱えてしまう患者に、情報は必要だ。1年間は設置を続けたい」と話している。同NPOによると、インターネットは情報量が多すぎると感じ、身近な図書館で必要な知識を得ようとする患者や家族は多いという。同NPOは、鳥取県立図書館や三島市立図書館(静岡県)でも同様の取り組みをしており、今後、全国の図書館に広げたいとしている。



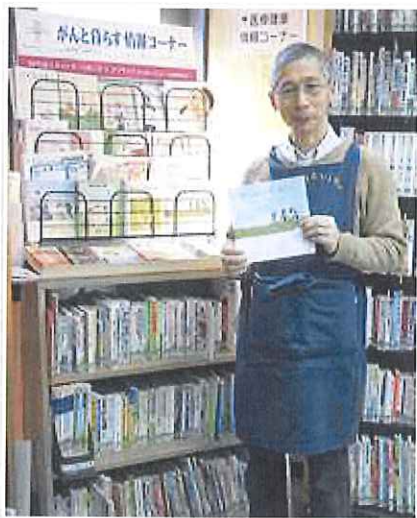
## 「がんについて考える」

麻生図書館に特設コーナー

2012年3月16日号

チェック

いいね!



「できることに目を向けてほしい」と池原館長

がん患者のケアや支えあい啓発活動を行っているNPO法人キャンサーリボンズ(福田護理事長)とアメリカンファミリー生命保険会社(外池徹社長)、麻生図書館(池原真館長)らが協力し、同図書館内に「がんと暮らす情報コーナー」を設置した。

この活動は「図書館連携プロジェクト」と題され、昨年12月に始動。麻生図書館を含む4つの図書館で昨年末から3カ月を目処にコーナーを試験導入していたが、利用者らの要望で設置の継続が決定したという。

コーナーには同NPOが作成した冊子に加え、大手薬品会社や保険会社から寄付された本が並べられている。病気への理解を深め、術後の食生活や就労継続など、毎日の生活に関わる情報を揃えた。がんを受け入れ、付き合っていくために利用してもらうのが目的。中にはがん患者の親をもつ子ども向けの冊子など、ユニークなパンフレットも揃えられている。

また、プロジェクトの一環として、同プロジェクトが独自にまとめたがんについてのパネル展示も実施。

パネルの展示は今月28日まで同図書館内で行われている。

■川崎市立麻生図書館

【電話】044・951・1305